



# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 早鞆中 学校】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・ <b>V</b> (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年 2クラス 69名 (男子30名・女子39名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 道徳科 総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	・視覚障がい者疑似体験を通して、生活する上での苦勞や工夫を知るとともに、インクルーシブな社会について考える。 ・ゴールボール選手の話の聞いたり、競技体験をしたりすることで、敬意の念とともに自分の目標とつなげながら人の生き方について学ぶ。
5 取組内容 【事前学習】 ①道徳科の授業	 <p>◇11月6日(水)に、パラリンピック競技であるゴールボールへの理解とともに、この競技に向き合い、夢に向かって努力する選手に関するTV番組を用いて、「ゴールボール 困難を乗り越える力」の道徳科の授業実践に取り組んだ。同時に、オリンピック・パラリンピックについての意識付けを行った。</p>
②視覚障がい者疑似体験学習	 <p>◇11月7日(木)に、北九州市社会福祉協議会門司区事務所ボランティア市民活動センターのご協力により、「視覚障がい者疑似体験学習」を実施した。生活する上での苦勞や工夫を体験することで、インクルーシブな社会について考えたり、調べたりすることへとつなげた。</p>
【ゴールボール体験学習】	◇11月12日(火)に、シーズアスリートの小宮正江氏を講師としてお招きし、「人生の壁はジャンプ台」の演題で講演を行っ

		<p>た。その後、早鞆中学校体育館にコートを作り、小宮選手によるルール等の解説や実技指導を受けながら、生徒たちは実際に競技を体験した。小宮選手のこれまでの経験から、苦労した話や努力して成功した話を聞き、実際にどのようにチーム内でコミュニケーションをとるのかについて教えていただいた。</p> <p>オリンピック選手のプレーを目の当たりにして、聴力・触覚を使ってボールの気配を感じとることができることが分かり、生徒たちはびっくりすると同時に感動していた。</p> <p>&lt;競技体験&gt;</p> <p>視覚を完全に遮断して競技を行った。ボールの音や足音だけを頼りにプレーするゴールボールの難しさを体験した。また、コートは、ラインテープと床の間に紐を入れて作成した。そのラインテープの下にある紐を頼りにプレーするが、思った以上に簡単ではなかった。このように、生徒たちは、聴覚・触覚を最大限に使ってプレーすることの難しさを体感するとともに、鈴の音を聞き取りながら転がってくるボールに少しだけ対応することができた。</p>
<p>6 主な成果</p>		<p>実際にオリンピック選手のお話を聞いたり、一緒に競技を行ったり、また、金メダルを目の当たりにしたりすることで、障がいの有無に関わらず、強い意志をもって事を為すことの大切さについて、多くの生徒が感想文に記述していた。また、視覚障がい者の立場になって考え、障がいを持った方々と共生する豊かな社会を作ろうとする心情が養われ、障がいを持つスポーツ選手に尊敬の念を持ち、その心情の強さを感じ、人の生き方について考え、自分の将来の目標へとつなげることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>礼儀作法やマナーの指導を行い、取組の理解を深めるための冊子(オリンピック・パラリンピックの歴史・ゴールボールのルール・当日の詳細な流れ)を作成した。</p>	
<p>8主な課題等</p>	<p>障がい者理解のための学習として、今回は二段階(視覚障がい者疑似体験学習・ゴールボール体験学習)で取組を実施した。障がい者に対する理解は深まったと思われるが、継続的に実施する必要がある。</p>	
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピック・パラリンピックに対する応援メッセージの取組を行う。</p>	